

事業名称	齋宮を核とした平安文化活用発信事業		
実行委員会	齋宮活性化実行委員会		
中核館	齋宮歴史博物館		
	住所	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503	
	TEL	0596-52-3800	FAX 0596-52-3724
	ホームページ	http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/saiku/	
構成団体	齋宮歴史博物館 明和町齋宮跡・文化観光課 国史跡齋宮跡協議会 (公財)国史跡齋宮跡保存協会 明和町商工会 明和町観光協会 齋宮ガイドボランティア 齋宮歴史博物館友の会 (一社)明和観光商社		
事業開始時点の課題分析	<p>齋宮歴史博物館は、史跡齋宮跡内に建てられた史跡と一体となった博物館である。国史跡齋宮跡は、古代から中世にかけての国家的な神祇祭祀の拠点であるとともに、「齋王」という女性を中心とした、都に準ずる都市的性格を持ち、全国的にも他に類のない遺跡として知られる。本館は、齋宮をテーマとする博物館として、齋宮の調査研究、地域の活性化、情報発信を実践している。しかし、齋宮の持つ価値の「わかりにくさ」から、一般的な情報発信だけでは、現代の博物館に求められる社会的課題に込えているとはいえない。また、一方で地元明和町のほぼ中央部で広大な面積を有する齋宮跡の活性化は、地域の活性化と強い関係を持つ。</p> <p>齋宮歴史博物館が、その現代的な役割を果たし博物館に成長すべく、齋宮に関する新たな情報の発信と、発信方法のレベル向上により、博物館周辺地域の齋宮跡への愛着や誇り、文化財を活かした次世代育成、古代から見直す現代社会の諸問題への提言など、現代社会に様々な提起ができる活動を行っていく必要がある。また、コロナ禍の中、地域の中核的な役割を果たす博物館として、新しい情報発信の在り方を模索する必要がある。</p>		
事業目的	<p>① 広大な史跡齋宮跡は、50年以上にわたって発掘調査が継続されており、齋宮跡の価値を高め、過去のイメージを覆す成果をあげてきている。この全国的にも貴重な史跡齋宮跡に住民や来訪者、講座等の参加者がより深く触れ、その高い価値への理解を深めることで、齋宮跡への愛着や地域での持続的な人材育成、齋宮跡を活かした文化振興・地域振興への意欲を高める。</p> <p>② 齋宮跡の発掘調査の成果や意義と今後の課題について、多賀城や大宰府などの古代の大型都市遺跡の調査と比較検討することで、多様な視点から古代の官衙遺跡を考える機会を提供し、その成果を広く発信することで、齋宮や齋宮跡に対する興味関心を広げ、高める。</p>		
事業概要	<p>① 齋宮跡で実施する発掘調査の方法・過程や調査成果を、地域住民や地域団体、来訪者に対し、広く公開・発信していくとともに、三つの大都市圏と地元地域で発掘調査成果を紹介する公開講座・発掘成果報告会などを地域団体と開催した。これにより多くの方々の齋宮への理解・関心を深めることができ、齋宮跡を核とした人材育成や交流人口の拡大につながる契機を作ることができた。また、コロナ禍に対応できるオンラインでの情報発信のノウハウを獲得し、これからの博物館の情報発信の在り方を検討する下地や、他館・大学との良好な協力関係を構築することができた。</p>		

	<p>② 齋宮・多賀城・大宰府シンポジウム「古代国家転換期の齋宮・多賀城・大宰府」を齋宮歴史博物館講堂において1月29日（土）開催予定で準備を進めていたところ、新型コロナウイルス感染症拡大のためやむをえず中止とし、オンラインでの開催に変更した。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1 齋宮を積極的に外部発信するための公開講座</p> <p>(1) 大都市圏での公開講座の開催</p> <p>① 大都市圏において、当地の博物館・高等教育機関等と連携した公開講座の開催</p> <p>② 公開講座と連動した、大都市圏での齋宮跡のPR活動</p> <p>(2) 発掘現場の公開と発掘成果報告会の開催</p> <p>2 古代都市遺跡連携シンポジウム</p> <p>(1) 齋宮・多賀城・大宰府シンポジウム「古代国家転換期の齋宮・多賀城・大宰府」のオンライン開催</p> <p>(2) 新映像展示メイキングパネル展の開催</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>1 齋宮を積極的に外部発信するための公開講座</p> <p>(1) 大都市圏での公開講座の開催</p> <p>大都市圏にある府中市郷土の森博物館、東北歴史博物館・宮城県多賀城跡調査研究所、奈良大学との共催により、発掘調査の成果により高められてきた史跡齋宮跡の歴史的・文化的価値伝える公開講座を、会場参加とYouTubeによるオンライン配信のハイブリッド形式で計画した。新型コロナウイルス感染症拡大の第6波の影響により、府中と奈良大学では会場参加を中止し、すべてオンライン配信に切り替えてもらうようにして実施せざるをえなかったが、府中市郷土の森博物館(R4年2月6日)で58名、東北歴史博物館(R4年2月20日)で171名、奈良大学(R4年3月5日)で121名の参加・視聴があった。アンケート結果では、80.5～100%が、齋宮を始めて知った、齋宮に関心を持った。またほぼ100%が今回の公開講座に満足・まあ満足との回答があった。コロナ禍のもとでの開催については、オンラインの利便性だけでなく、会場開催への強い要望もうかがえた。</p> <p>また、R4年3月20日には、齋宮歴史博物館において発掘調査報告会を開催し、齋宮跡の最新の発掘成果と、大都市圏での公開講座の成果を地元の方々を主な対象に報告し、41名の参加を得、齋宮跡の歴史的・文化的価値をあらためて知っていただいた。</p> <p>中核館と地域の共働の部分は、コロナ禍の中で計画を変更せざるを得なかったが、動画やパンフレット類を用いた齋宮の観光PRには、地元明和町と連携したほか、実行委員会構成団体間で、事業の情報の共有を行った。</p> <p>(2) 発掘現場の公開と発掘成果報告会の開催</p> <p>R3年9月から1月まで実施した齋宮跡第200次調査を、安全対策を取ったうえで原則公開により行った。調査期間中、通算で221名の見学があった。また、R4年1月15日に開催した発掘現地説明会では1日に133名の参加があり、多くの方々に齋宮跡の発掘調査に触れていただくことができた。</p> <p>2 古代都市遺跡連携シンポジウム</p> <p>(1) 齋宮・多賀城・大宰府シンポジウム「古代国家転換期の齋宮・多賀城・大宰府」は、当初対面型での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大第6波のためオンラインでの開催に変更、受講応募者49人に案内を行い視聴回数は295回となった。</p>

(2) 最新の発掘調査成果を新たに発信する成立期の齋宮をテーマとした新しい映像展示公開に先立ち、そのメイキングを紹介するパネル展を2月19日（土）から3月31日（木）実施し、613人の来場者があった。
--

【事業実績】

1 齋宮を積極的に外部発信するための公開講座

(1) 大都市圏での公開講座の開催

① 大都市圏において、当地の博物館・高等教育機関等と連携した公開講座の開催

府中市郷土の森博物館でR4年2月6日に「武蔵国府と伊勢齋宮」をテーマに実施。コロナ禍のため、オンライン視聴のみとし、58名の参加。東北歴史博物館でR4年2月20日に「多賀城と伊勢齋宮」をテーマに実施。会場104名、オンライン視聴67名が参加。奈良大学でR4年3月5日に「飛鳥の王宮・王都と伊勢齋宮」をテーマに実施。オンライン視聴のみとなったが121名の参加があった。アンケート結果では、①これまで齋宮を知らなかった：府中45.5%、宮城50.0%、奈良17.6%、②齋宮に関心を持った：府中64.3%、宮城58.2%、奈良62.9%、③齋宮に行ってみたくと思った：府中35.7%、宮城40.1%、奈良37.1%と、齋宮の認知度高めるのに役立った。

◎参加者の声

講座の内容について、「初めて齋宮を知った。ぜひ行ってみたい。」「配付資料が立派で充実していた。大切にしたい。」「齋宮の発掘成果をまとめて聞けてよかった。」等の声が、実施方法については、「会場とオンラインのハイブリッド方式は広げてほしい。」「コロナで中止にならなくてよかった。」「今後も継続してやってほしい。」「ハイブリッド方式は遠方からも参加できる。」「オンラインだけでなく、会場参加も続けてほしい。」といった声があった。



府中市郷土の森博物館での収録・配信



奈良大学での収録・配信



東北歴史博物館での講座状況



東北歴史博物館での講座の収録・配信

(2) 公開講座と連動した、大都市圏での齋宮跡のPR活動

・大都市圏の公開講座前や休憩時間に地元の明和町が日本遺産をPRするために作成した動画を流し、オンラインでも配信した。

・府中市郷土の森博物館では、公開講座にあわせて1月22日から3月13日の間、エントランスに特設コーナーを作り、齋宮を代表する羊形硯・鳥形硯のレプリカを展示した他、観光パンフレット・チラシの配布を行った。この間の来館者は1.9万人を超え、齋宮に認知度向上に役立った。また、宮城の東北歴史博

物館でも、当日会場参加の方々にパンフレット・チラシの配布を行った。

◎展示観覧者の声

(展示品を見て)「これが1,250年前のものとは思わなかった。地中から出てきたとはすごい。」



府中市郷土の森博物館の展示状況



展示のパネルと配布したPR資料

(2)発掘現場の公開と発掘成果報告会の開催

地域住民らを対象に、今年度9～1月に実施した斎宮跡第200次の調査期間の公開(見学者のべ221名)と、調査成果を発表する現地説明会(参加者133名)をR4年1月15日に開催した。また、斎宮の地元地域住民に発掘の成果と大都市圏の公開講座の成果を伝えるための、発掘報告会とミニシンポジウムをR4年3月20日に実施した(会場参加者41名)。

◎参加者の声

発掘現場の見学者から「遺跡の発掘を始めて見て感動した。発掘方法も教えてもらえて興味深かった。」「広大な史跡を長年にわたって発掘してきた成果が上がってきて嬉しい。」「もっといろんな人たちに斎宮を知ってほしい。」という声、発掘報告会では、「これからの発掘に期待している。」「来年も楽しみにしている。」という声があった。

2 古代都市遺跡連携シンポジウム

(1) 斎宮・多賀城・大宰府シンポジウム「古代国家転換期の斎宮・多賀城・大宰府」

斎宮の方格街区整備は、桓武朝を中心とした8世紀後半から9世紀前半(光仁～嵯峨朝)の政治動向に対応して行われてきたことが近年の調査で明らかとなってきた。律令国家の重要な出先機関である多賀城や大宰府も同様に顕著な変化が表れている。こうした律令国家の重要な出先機関の変化と再整備を比較検討することで、奈良時代から平安時代の転換を考えるシンポジウムを実施した。当初対面型での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大第6波のため、オンラインに変更して受講応募者49人に案内を行い、2日間限定公開したところ視聴回数は295回となった。

◎参加者の声

聴講者からは、「斎宮が教科書に載っていた大宰府や多賀城と同じくらい大事な遺跡だということがよくわかった。」「桓武天皇がなぜこれだけ大きな事業を各地で起こしたのか、さらに知りたい。」「発掘でわかったことがわかりやすく説明されたのでよかった。」「討論会がなかったので残念。」「こんな時期なので残念ですが、会場で質問したかった。」「大宰府は行ったことがあるが、多賀城はよく知らなかったの、コロナが明けたら行きたいと思った。」「zoomでの録画配信なのでこれくらいなのだろうが、やはり不満。再度開催してほしい。」等の感想をいただきました。

(2) 新映像展示メイキングパネル展

最新の発掘調査成果を新たに発信する成立期の斎宮をテーマとした新しい映像展示公開に先立ち、そのメイキングを紹介するパネル展を2月19日(土)から3月31日(木)実施し、613人の来場者があった。

◎来場者の声

「20分の映像をつくるのに色々な手間がかかっているのですね」
「白狐はどんな仕事をするのか、新映像が楽しみです。」等の感想をいただいた。

